

陳情 国の責任による「20人学級」を展望した少人数学級の前進を求める請願

陳情

【請願趣旨】

新型コロナウイルス感染拡大による臨時休業から学校再開への移行段階で「3密」を避けるためにクラスの1/2程度で授業ができる分散登校や時差登校が行われました。20人程度で授業を受けた子どもたちからは「いつもより勉強がよくわかった」「手を上げやすかった」などの声が聞こえ、教職員から「ゆとりをもって子どもたち一人ひとりと丁寧にかかわることができた」、保護者から「感染から子どもを守るには一クラスは20人くらいであってほしい」などの肯定的な声が上がりました。20人で授業を受けられるようにすることが感染拡大を防ぐとともに、豊かな学びを実現することにつながることで実感されました。

学校を再開するにあたり、感染拡大防止対策として教室の「密」を避けるためには少人数学級の授業、学校規模の縮小などが必要です。そのためには教職員を増やすことも不可欠です。現行の40人学級では子どもたちのいのちと健康を守ることができません。教室に「社会的距離」を確保するには20人程度で授業できるようにすることが必要です。いま「20人学級」を展望した少人数学級の前進が求められています。

さらに、学校現場で働く教職員は40人学級という過密な環境で感染防止対策に最大限の配慮しながら、授業時間の確保に追われている状況があります。「子どもも教職員もくたくたになっている」「子どもの様子を見る余裕がない」「消毒作業など過重な労働」「感染拡大を招いてはならないという精神的な負担が大きい」など悲痛な声が上がっています。

さまざま課題を抱えた子どもたちが増える中、一人ひとりにゆきとどいた教育を保障するため、全国の多くの自治体が独自に少人数学級を実施していますが、国の責任による少人数学級は小2で止まったまま8年連続で見送られています。

コロナ禍の中で「20人学級」を展望した少人数学級の前進は圧倒的多数の父母・保護者と教職員、地域住民の強い願いです。他市ではそれに応えて自治体独自の少人数学級が着実に前進しているところもあります。しかし、国の責任による施策ではないため、自治体間格差が広がっていることも厳しい現実です。教育の機会均等を保障するためには、地方に負担を押しつけることなく、国が責任を持って少人数学級の前進とそのための教職員定数改善を行うことがきわめて重要です。

以上の趣旨に沿って、下記について、国に対する意見書を採択してください。

記

- 1、子どもたちのいのちと健康を守り、成長と発達を保障するため、緊急に20人程度で授業ができるようにすること。そのために教職員増と教室確保を国の責任で行うこと。
- 2、「20人学級」を展望し、少人数学級を実現すること。そのために国は、標準法を改正し教職員定数改善計画を立てること。

以上